

自然ネイチャーポジティブ：自然を基盤とした解決策の最前線  
～再生型農業・小農支援・GHG削減～

## ネイチャーポジティブ経営と企業の連携可能性 ー グローバル潮流と連携事例から ー



南アフリカ：「東ケープの放牧地」



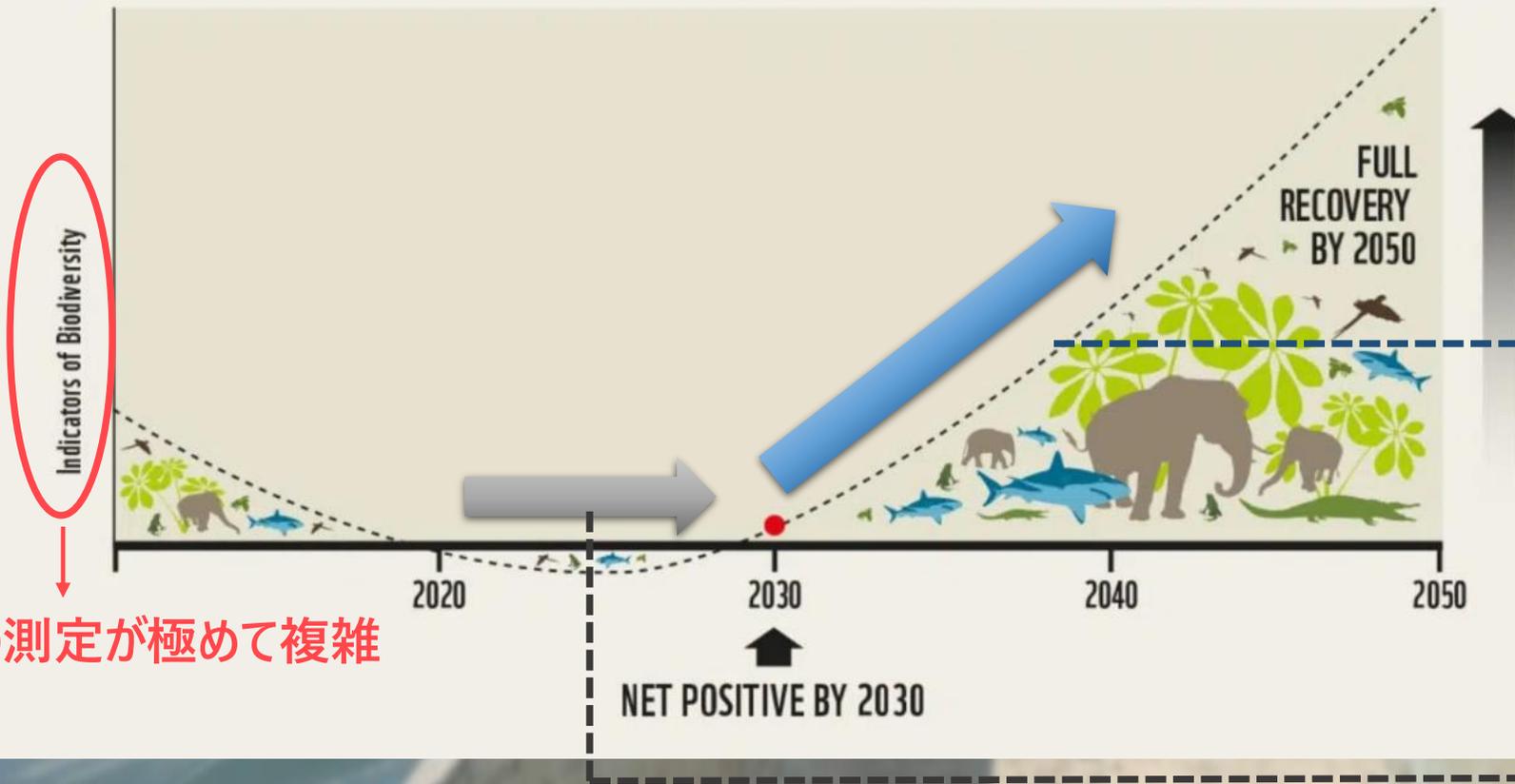
認証やトレーサビリティの取得はネイチャーポジティブ（NP）に該当するだろうか？

- ▶ はい
- いいえ
- ▶ ???

ネイチャーポジティブ：

「2030年までに自然の喪失を食い止め、回復に反転させ、2050年までに完全な回復を達成する」

## Nature Positive by 2030



この測定が極めて複雑

求められる方向性

自然生態系が回復

Net Positive^

今多く取り組みは、

自然生態系の損失を止める

No net loss (≠ NP)

# 「自然の状態指標」\_TNFDのグローバルコア指標 v1.0

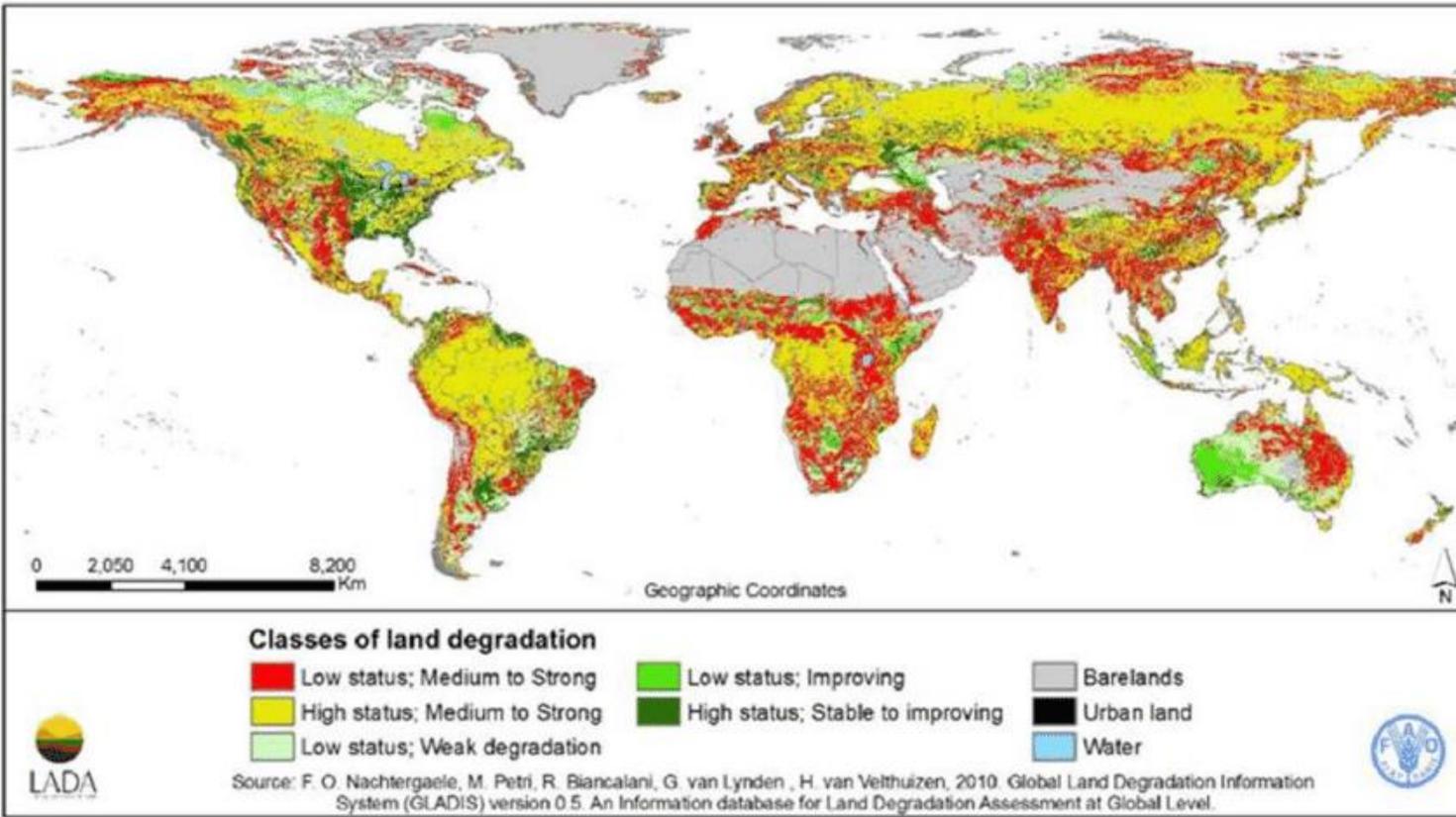
No.	自然変化の要因	指標		
	気候変動	温室効果ガス排出量	ISSB S2 気候関連開示基準を参照	
C1.0	陸上/淡水/海洋利用の変化	1. 空間フットプリント	総空間面積 (km <sup>2</sup> ): <ul style="list-style-type: none"> <li>• 組織が制御/管理する総表面積 (km<sup>2</sup>)</li> <li>• 妨害を受けた総面積 (km<sup>2</sup>)</li> <li>• 修復/復元された総面積 (km<sup>2</sup>)</li> </ul>	
C1.1		2. 土地/淡水/海洋の利用の変化面積	土地/淡水/海洋の生態系利用の変化の範囲 (km <sup>2</sup> ) 保全または復元された陸地/淡水/海洋生態系の範囲 (km <sup>2</sup> ) 持続的に管理される陸地/淡水/海洋生態系の範囲 (km <sup>2</sup> )	
C2.0	汚染・汚染除去	3. 土壌に放出される汚染物質の種類別量	種類別の土壌に放出された汚染物質 (トン)	
C2.1		4. 排水量および排水中の汚染物質濃度	排水量 (m <sup>3</sup> ) 排出された廃水中の主要な汚染物質の濃度 →上記に関連する場合は、排水の温度	
C2.2		5. 廃棄物の発生と処分重量	種類別の有害廃棄物と非有害廃棄物の重量 (トン) 処分された有害廃棄物と非有害廃棄物の重量 (トン) 埋め立て処分から転用され、分割された有害廃棄物と非有害廃棄物の重量 (トン)	
C2.3		6. プラスチック汚染	使用または販売されるプラスチックの総重量 (トン) を原材料含有量に分類して測定されるプラスチックの設置面積	
C2.4		7. 非温室効果ガスの大気汚染物質	非温室効果ガス大気汚染物質 (トン) の種類別: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 粒子状物質 (PM2.5 および/または PM10)</li> <li>• 窒素酸化物 (NO<sub>2</sub>, NO, NO<sub>3</sub>)</li> <li>• 揮発性有機化合物 (VOC または NMVOC)</li> <li>• 硫黄酸化物 (SO<sub>2</sub>, SO, SO<sub>3</sub>, SOX)</li> <li>• アンモニア (NH<sub>3</sub>)</li> </ul>	
C3.0		資源の利用/補充	8. 水不足地域からの取水と消費量	水源の特定を含んだ水不足地域からの水の取水量と消費量 (m <sup>3</sup> )
C3.1			9. 陸/海洋/淡水から調達される高リスクの天然物資の量	陸上/海洋/淡水由来の高リスク天然物資の量 (トン) 持続可能な管理計画または認証プログラムに基づいて調達された高リスク天然物資の量 (トン)
C4.0	侵略的外来種等	プレースホルダー指標	意図しない導入に対する対策	
C5.0	自然の状態	プレースホルダー指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生態系および事業活動の種類別の生態系状態のレベル</li> <li>• 種の絶滅リスク</li> </ul>	

「自然の状態」に関する指標はプレースホルダー。これは自然の状態の変化に関するすべての側面を捉える単一の測定指標が存在せず、コンセンサスが得られていないため

# 「No Net Loss」では不十分

地球はすでに限界を超えている...

これまで荒廃地化してきた土地の再生が必要  
(森林再生、再生型農業etc.)



国連生態系回復の10年（2020-2030）  
2030年までに劣化した土地3,500万haを回復

≒インド：3,287万ha



# 認証制度 を取得すれば課題は解決するか...



- 認証にかかるコスト
- 複雑な規制



大規模経営、生産者組合、  
政府・外部支援、先進国etc.

- 情報・知識の欠如
- 技術・資金の不足
- 先進国のルール
- 支援がない



小規模農家、社会的マイ  
リティ、etc.

## 認証制度の活用が極端に進むことで、懸念される新たな課題

小規模農家にとっては、認証取得のハードルが高い

一方で企業側にとっては認証の活用が最も手間もコストもかからない

→ 認証制度へのアクセスのある一部の生産者/地域が制度の恩恵にあずかり、その他は除外される可能性

認証制度にアクセスできない、適合しない環境下での生産を担っているのは、大半が社会的弱者（貧困、社会的マイノリティ、無国籍、不法労働...）

彼らの更なる貧困化は、更なる違法行為の誘発、移民増加、治安悪化、紛争への発展などリスク高める





1haを150ドルで伐採  
(サッカーピッチくらいの広さ)

借金の返済が出来なくなり、  
町の仲介人に雇われる

1haの森林再生 (植林)  
コストは？

→ 3,000-6,000USD+時間

根本的な課題解決のためには、より総合的な対策 (SDGs寄り) が必要になってくる

# “Premiums” doesn't work

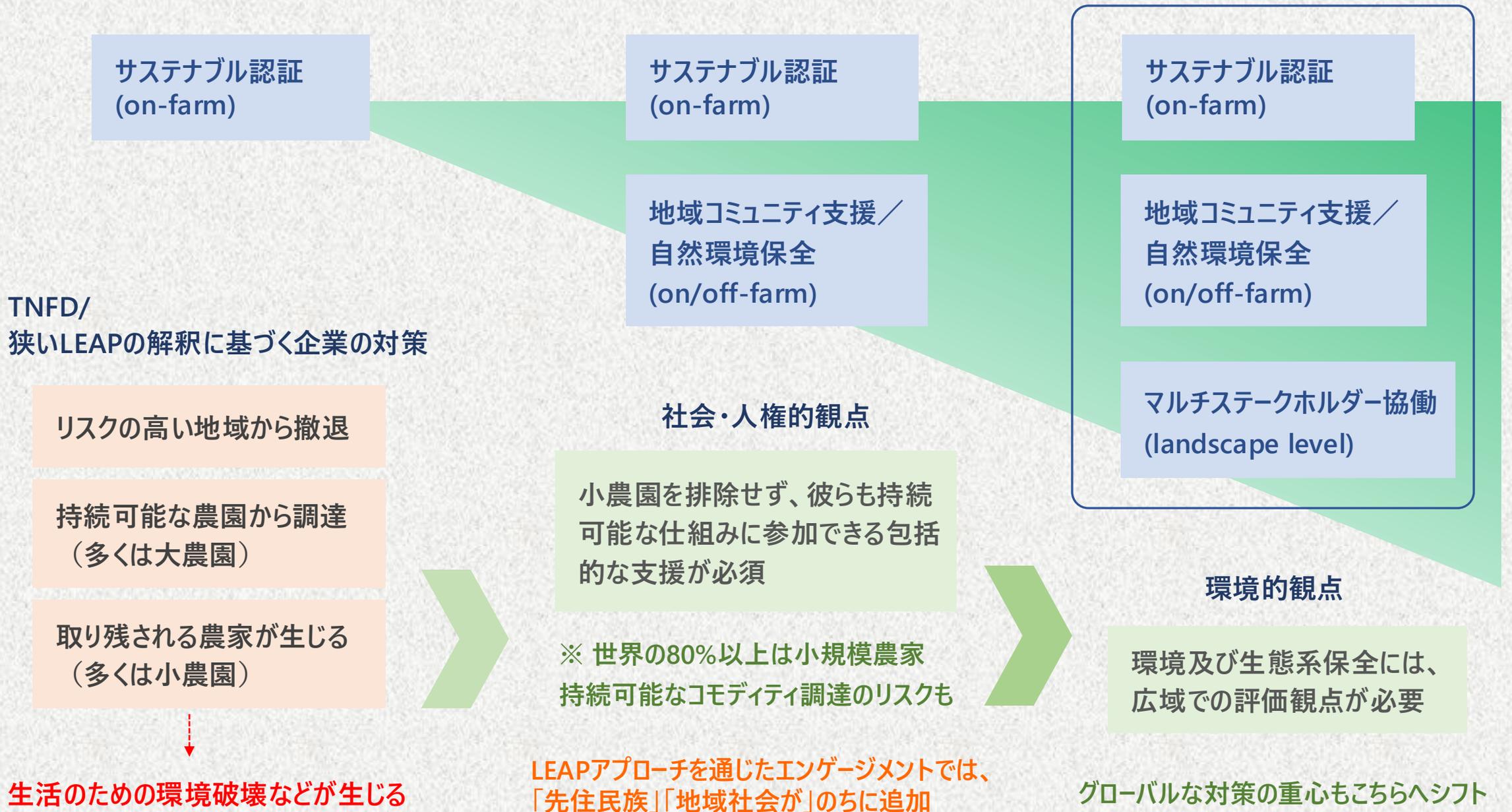


- Premiumsの多くは認証組織や中間業者が吸収、生産農家や土地には十分還元されない
- モンゴルではヤギの頭数が、草原の再生に適切な量の3-7倍。必要なのはヤギ頭数のコントロールと荒廃した草地の再生
- Premiumsは豊かな草原でのヤギ過放牧に繋がり、荒廃した草原へより一層資金が行き届かない構造をつくる
- 単発的なPremium支払いではなく、持続可能なランドスケープ利用のための長期的な資金が求められている

(by Good Growth社/  
Regen Fund for Natureモンゴルプロジェクト)

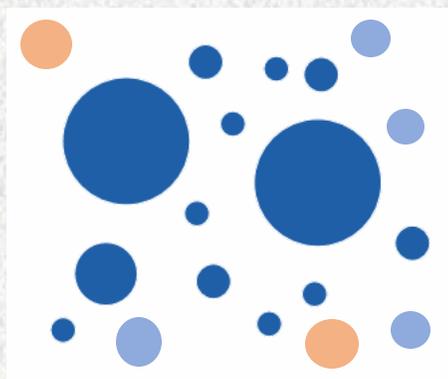
--- 持続可能な調達を巡る潮流 ---

ランドスケープ／シースケープアプローチ

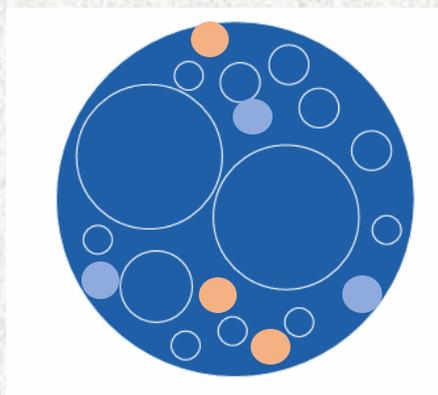


--- 自然生態系保全の観点から ---

ランドスケープ／シースケープアプローチ



従来の個々のプロジェクト



ランドスケープアプローチ



より長期的に持続可能な生産を支える環境

- 地域の社会・経済・環境課題を包括的に解決
- はるかに高いインパクトを創出（自然+気候+社会）
- 成果が定量化／可視化しやすい+共有できる
- 資金調達面でも様々な可能性が広がる... etc.

## ネイチャーポジティブを巡る世界およびグローバル企業の動き

- COP16では、地域を包括的に捉えるランドスケープ／シースケープの考え方が注目を集める
- 2024年10月にNature Positive Initiativeが自然の状態に関する指標（Nature Positive metrics）を提案、開示が必須の「ユニバーサル指標」に「Landscape Condition」が含まれる  
→2026年以降、TNFD, SBT-N, Global Reporting Initiativeなどに反映見込み
- In-settingでは少なくとも地域コミュニティレベルでの取り組みを評価
- コーヒーセクターでは、スターバックス、ウォルマートが連携して、コーヒー生産地のランドスケープレベルでのマルチセクター協働プログラムが開始（コロンビアHuila県／今後他地域へ展開予定）
- コモディティ調達レベルの取り組みを促進する資金の流れも（GEF-FOLURなど）

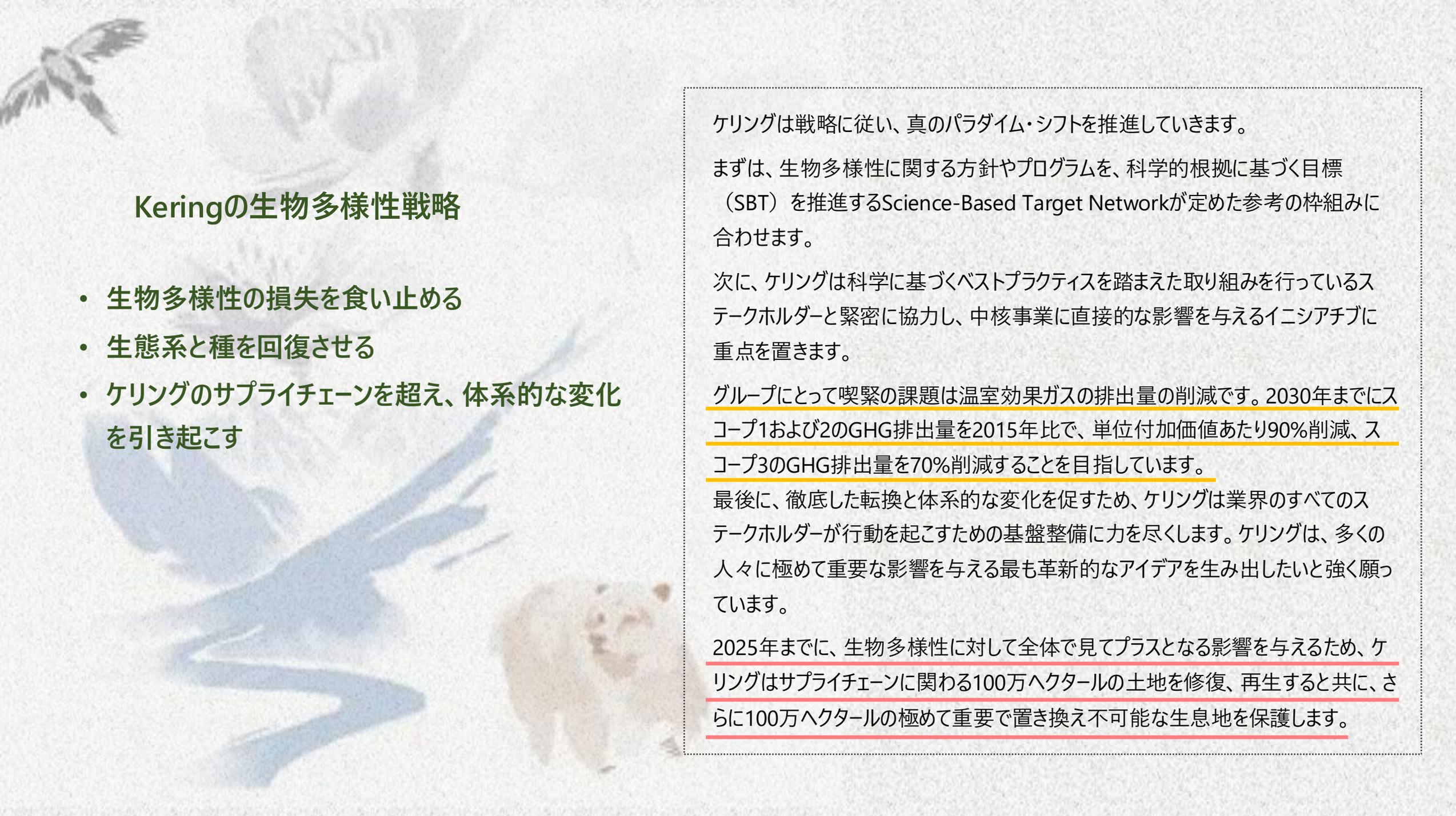
# ケリング/ Nature Positiveへの取組み

KeringはWBA (World Benchmarking Alliance) によるNature Benchmark (22-24) で世界816社中総合1位

# KeringのEP&L (環境損益計算) 2021年度

サプライチェーン上流





## Keringの生物多様性戦略

- 生物多様性の損失を食い止める
- 生態系と種を回復させる
- Keringのサプライチェーンを超え、体系的な変化を引き起こす

ケリングは戦略に従い、真のパラダイム・シフトを推進していきます。

まずは、生物多様性に関する方針やプログラムを、科学的根拠に基づく目標（SBT）を推進するScience-Based Target Networkが定めた参考の枠組みに合わせます。

次に、ケリングは科学に基づくベストプラクティスを踏まえた取り組みを行っているステークホルダーと緊密に協力し、中核事業に直接的な影響を与えるイニシアチブに重点を置きます。

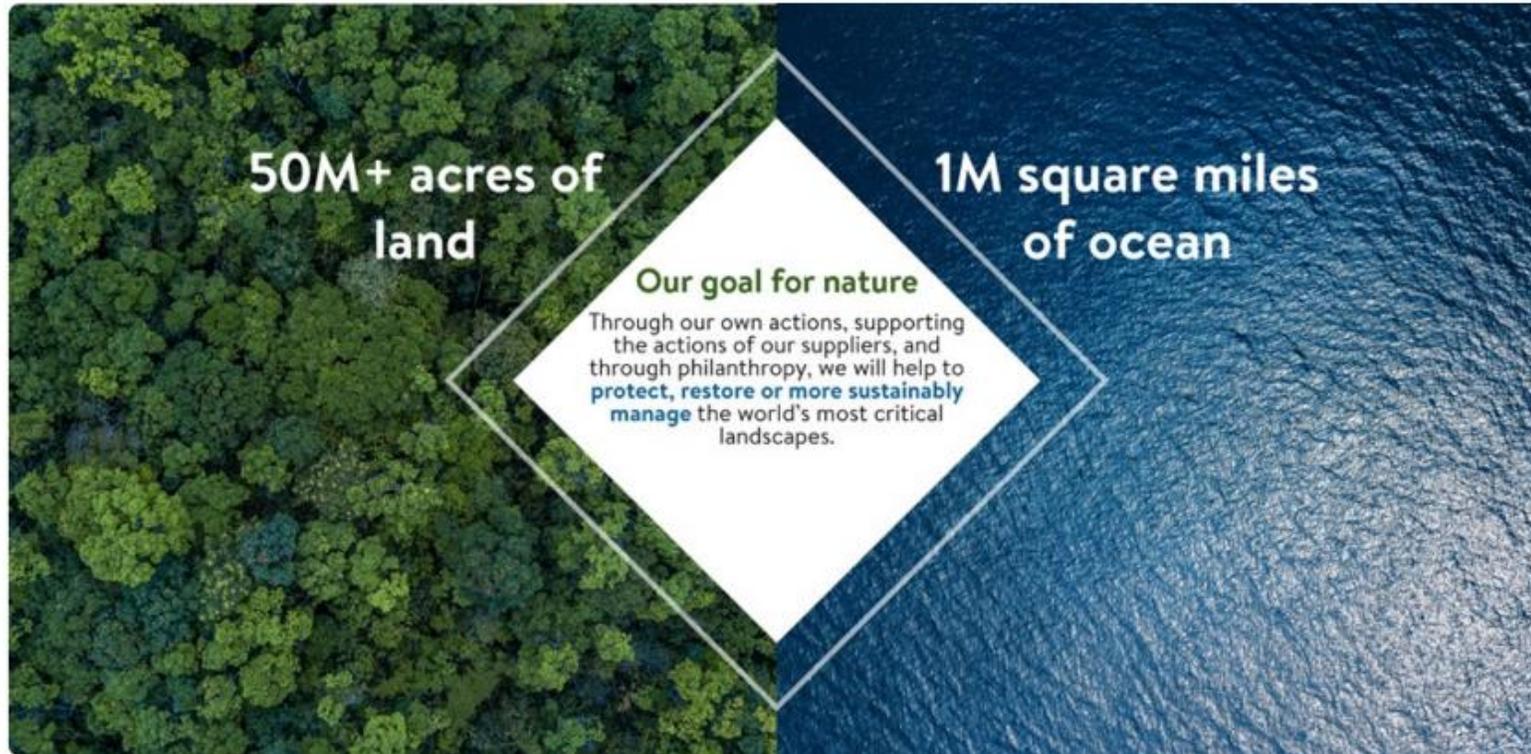
グループにとって喫緊の課題は温室効果ガスの排出量の削減です。2030年までにスコップ1および2のGHG排出量を2015年比で、単位付加価値あたり90%削減、スコップ3のGHG排出量を70%削減することを目指しています。

最後に、徹底した転換と体系的な変化を促すため、ケリングは業界のすべてのステークホルダーが行動を起こすための基盤整備に力を尽くします。ケリングは、多くの人々に極めて重要な影響を与える最も革新的なアイデアを生み出したいと強く願っています。

2025年までに、生物多様性に対して全体で見てプラスとなる影響を与えるため、ケリングはサプライチェーンに関わる100万ヘクタールの土地を修復、再生すると共に、さらに100万ヘクタールの極めて重要で置き換え不可能な生息地を保護します。

## (参考) Walmartのネイチャーポジティブ戦略

「WalmartとWalmart財団は、2030年までに、主要コモディティのサステナブル調達を通じて、50百万エーカー以上の陸地、100万平方マイル以上の海域を保全／持続的に管理／再生する」



主要コモディティにつき、その生産に必要なとする自然資本を生産的な生態系の面積に換算し、生態系保全（影響回避）、持続可能な生産への転換（影響緩和）、生態系の再生（再生）を通して、自社ビジネスによる影響面積以上の正の効果（面積）に投資

### 主要コモディティ

パーム油、牛肉（南米）、大豆（南米）、パルプ/紙/木材、セルロース繊維、コーヒー&茶、ココア、トウモロコシ、小麦、コメ、綿、生鮮食品&切り花、バナナ&パイナップル、乳製品、豚肉、鶏肉、海鮮&冷凍シーフード、ツナ缶

# Regenerative Fund for Nature 「自然再生基金」

KERING



INDITEX



アラル海：「20世紀最大の環境破壊」

# Regenerative Fund for Nature

## ファンドの目的

- 2026年までに、100万ヘクタールの農地／放牧地を環境再生型農業へ
- 現存の原料生産方式へアプローチすることで、ファッション業界の在り方を抜本的に変える

## 環境再生型農業（regenerative agriculture）

農地の土壌をただ健康的に保つのではなく、土壌を修復・改善しながら自然環境の回復に繋げることを目指す農業。土壌の有機物を増やすことでCO2を貯留し、気候変動を抑制するのに有効な手段だと考えられている

不耕起耕作、被覆作物の活用、輪作、合成肥料の不使用など



# Regenerative Fund for Nature

## ファンドの概要

COP15開催前

- ケリングとCIにより2021年に開始
- 目的達成に向け、主要原料（革、綿、羊毛、カシミヤ）の生産に関わるプロジェクトに対して、助成金を支給
- 2023年にInditexが加わり、スケールとインパクトの拡大が見込まれる

# Regenerative Fund for Nature

▶ 主要生産地域において、影響を補うプログラムを創出

## 助成対象プロジェクト（計880,600ha/2024時点）

モンゴル：カシミア／Good Growth Company

インド：綿／Organic Cotton Accelerator

アルゼンチン：牛革／Solidaridad

スペイン：ヤギ革／Fundación Global Nature

アルゼンチン：羊毛／Wildlife Conservation Society（～2024.12）

フランス：羊毛、羊革／Epiterre

南アフリカ：羊毛／Conservation South Africa

パキスタン：綿／Organic Cotton Accelerator（2023～）

ウガンダ：綿／African Wildlife Foundation（2024～）

# Regenerative Fund for Nature

## 主要原則

- 気候
- 土壌の健全性
- 水資源
- 生物多様性
- 人々の生計
- アニマルウェルフェア

これらの項目に沿ってモニタリングを実施。  
各プロジェクト毎にSBT-Nに沿って指標を設定し、  
基準を満たした土地を成果として換算

➤➤ 10,000ha+ を目標

# Regenerative Fund for Nature

## 助成対象プロジェクト

モンゴル：カシミヤ

インド：綿

アルゼンチン：牛革

スペイン：ヤギ革

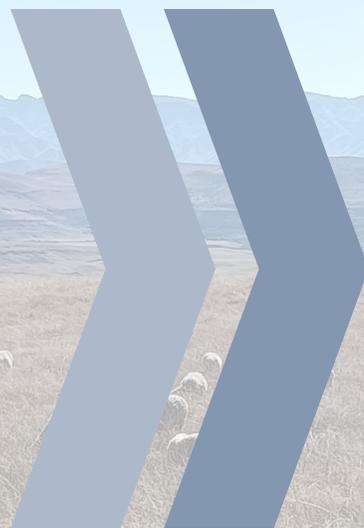
アルゼンチン：羊毛（～2024.12）

フランス：羊毛、羊革

南アフリカ：羊毛

パキスタン：綿（2023～）

ウガンダ：綿（2024～）



- 各プロジェクトが直面する課題や発見、学びなどに共通事項が非常に多い
- 同様モデルの地域展開のポテンシャルが高い（→ランドスケープレベルへの展開）
- 得られた知見は、「再生型農業」全般に応用可能

# Regenerative Fund for Nature

## Keringの生物多様性戦略

- 生物多様性の損失を食い止める
- 生態系と種を回復させる
- ケリングのサプライチェーンを超え、体系的な変化を引き起こす

## ファンドの目的

- 2026年までに、100万ヘクタールの農地／放牧地を環境再生型農業へ
- 現存の原料生産方式へアプローチすることで、ファッション業界の在り方を抜本的に変える

- ファンドで蓄積した知見を活用し、再生型農業の普及を世界で促進
- ファッション業界を超え、企業のネイチャーポジティブ取り組みを先導

# Regenerative Fund for Nature

- 南アフリカでは、ランドスケープ (Mzimvubu Catchment) レベルに活動が展開
- ファンド以外に、H&MとWWFによる同様のプロジェクトとも連携、ゴールを共有
- 日本企業も同じランドスケープで、牛の放牧を対象とした同モデルプロジェクトを支援 (2022～)
- このプロジェクトモデルは、南部アフリカの放牧地域の保全プログラムに今後展開





What's next?



ご清聴ありがとうございました

